令 和 ２ 年 度

事　業　報　告　書

～ つなぐハート　つなげる明日　魚津市社協 ～

社会福祉法人　魚津市社会福祉協議会

令和２年度　社会福祉法人魚津市社会福祉協議会　事業報告

経営重点目標

１．安定した法人経営と地域から信頼される組織づくり

２．地域住民が安心して暮らせる支え合いの仕組みづくり

３．地域住民が自立した生活を送ることができるための権利擁護体制の構築

４．地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるサービスの実施

５．地域福祉の拠点施設としての機能の拡充

取組み状況

新型コロナウイルス感染症により新たな生活課題が明らかになり緊急的支援を要する人々が急増しました。あわせて人と人とのつながりの希薄化や生活の困窮、地域住民の孤立など、既存の制度では対応しがたい生活課題が著明となりました。このような状況の中、魚津市社協では、人々の暮らしを守ることを第一優先課題として総合相談体制の整備、緊急的な生活支援体制の構築
を図るとともに、徹底した感染症対策による安定的なサービス提供に努めました。
そしてこれまで当たり前にしていたことにも制限がかかり、ウィズコロナ時代の「新たな生活様式」への対応が求められる中での地域福祉活動の実践に努めるとともに、コロナ禍であっても人びとが相互に人格と個性を尊重し合いながら社会参加し、自立的な暮らしを続けることのできる地域づくりをすすめる「地域共生社会」の実現に取り組んできました。

1　地域福祉拠点（収入額：144,947,358 円　支出額：141,088,936 円）

1　法人運営事業サービス区分（収入額：82,481,083 円　支出額：82,481,083 円）

(1) 法人運営事業	予算額　20,042,000 円	収入額　13,800,853 円	支出額　13,800,853 円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
法人組織力の機能強化と職員の専門性を活かす人材育成に努めます。 〇部署間連携を強化し職員の資質向上を図ります	通年	・コロナ禍のため開催が中止された研修会もありましたが、安定したサービス提供や質の高い支援を行うため業務上必須となる養成研修への参加に積極的に取り組みました。 ・全国研修会がオンライン開催となり、参加しやすくなり職員の資質向上に努めました。また、各部署内での研修等を充実し、より安全で質の高い支援体制に努めました。	資格取得研修 ・相談支援従事者養成研修 ・強度行動障害者支援者養成研修 ・コミュニティソーシャルワーク研修
〇法令順守を徹底し地域住民から信頼される法人経営に努めます。	通年	・育児・介護休業法の改正に合わせて規程の一部見直しを行いました。また給与規程についても所要の見直しを行いました。	
〇法人の経営状況、財務状況の正確な把握に努めます。	通年	・執行状況を注視し、安定的な法人運営に努めました。	
〇旧福祉センター百楽荘の維持管理費を当法人で負担し、安全な管理に努めます。	通年	・旧福祉センター百楽荘内にあった魚津市福祉総合相談支援センターを事務局内に設置するとともに、食糧支援、レクリエーション用具、介護用品の貸出業務を円滑に実施できるように環境整備を行いました。	

⑵地域包括支援センター介護予防支援事業	予算額　30,794,000 円	収入額　30,321,472円	支出額　30,321,472円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
指定介護予防支援事業（要支援１・２のケアプラン作成と給付管理）、介護予防・生活支援サービス事業対象者に対する予防プラン作成等を行う職員を市包括支援センターに派遣します。 〇派遣する職員を１名増員し、６名とします。	通年	・派遣する職員を1名増員し職員６名（常勤職員５名、契約職員１名）を市地域包括支援センターに派遣しました。要介護状態への移行を予防するための介護予防マネジメントや介護予防・生活支援サービス事業対象者に対する予防プラン成を行いました。	派遣職員の内訳 介護支援専門員　５名 社会福祉士　１名

⑶ 介護認定調査受託事業	予算額	6,418,000 円	収入額	5,955,221円	支出額	5,955,221円
年度計画			２年度事業報告			
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等			実績等
本会職員が市社会福祉課に出向し、要介護認定申請者の自宅等に訪問し、心身等の状況を確認し、調査票のまとめを行います。		通年 本会職員２名出向	・市社会福祉課介護保険係に介護認定調査員として職員２名（契約職員）を派遣し、介護認定調査業務を行いました。			
⑷ 退職共済積立事業	予算額	22,381,000 円	収入額	22,368,840円	支出額	22,368,840円
年度計画			２年度事業報告			
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等			実績等
全国社会福祉協議会が運営する退職手当積立基金制度に加入しており、将来の退職手当給付に充てるための資産確保に努めます。		通年	・正職員49人分の掛金納付や退職年金受給者１人分の支給手続きを行うとともに、全国社会福祉協議会からの積立基金加入状況や資産運用状況等の報告を注視しました。			※令和２年度末の状況掛金累計額　157,532,898円 退職金要支給額 184,558,012円
⑸ 中期経営計画推進事業	予算額	70,000 円	収入額	34,697円	支出額	34,697円
年度計画			２年度事業報告			
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等			実績等
中期経営計画の進捗状況を管理するとともに、推進委員会を開催します。 〇計画の実施状況や財政計画を実態と照らし合わせ、必要な見直しを行います。		年１回開催	・計画４年目として、これまでの取り組みから見えた課題や現状を評価し、安定的な法人運営を行うための事業展開、財務状況の見直しを行いました。			中期経営計画推進委員会の開催　11月27日
【新】⑹社会福祉法人連携強化事業	予算額	0 円	収入額	0 円	支出額	0 円
年度計画			２年度事業報告			
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等			実績等
魚津市内の社会福祉法人が連携し、魚津の福祉をよくするための公益的な取り組みを推進します。 〇「魚津市社会福祉法人連絡会」の事務局として、情報提供や地域課題に対応するための活動を行います。		通年	・コロナ対応を重視した各法人の事業運営を実施することについて共通理解を図りました。			
【新】⑺法人力強化推進事業	予算額	300,000 円	収入額	0 円	支出額	0 円
年度計画			２年度事業報告			
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等			実績等
地域に求められる魚津市社会福祉協議会を目指し、経営体制強化、組織力強化を行います。		先進地社協実地視	・新型コロナ発生による緊急事態に対応し、各部署内の			

○魚津市社協の強みを生かせる組織力強化に向けた研修会等を開催します。	察 人材育成研修会 年３回	安定的な事業運営を最重要課題として取り組んだため、研修会等を開催できませんでした。 ・ＷＥＢ会議やZOOMによる研修参加を行うため、事務局内にWifi環境を整備しました。	

２　魚津善意銀行事業サービス区分（収入額：4,586,951円　支出額：859,759円）

(1) 魚津善意銀行事業	予算額　4,756,000円	収入額　4,586,951円	支出額　859,759円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
市民の皆様からの寄附金や寄附物品をお預かりし、地域福祉活動支援に活用します。 ○善意銀行の在り方の見直しや、時代に応じた寄附金の在り方について検討します。	通年	・市民の皆様からの善意を、寄附金や寄附物品として受付し、福祉団体への活動助成金として地域での福祉活動に還元しました。 ・社会福祉大会において、前年度の高額寄附者へ感謝状の贈呈をし、感謝の意を表しました。	・一般寄附111件　1,730,233円 ・指定寄附　7件　790,000円 〈内訳〉 地区社協3件　150,000円 つくし学園2件　550,000円 身障デイ2件　90,000円 ・物品寄附　17件

▲　第69回魚津市社会福祉大会

▲　指定寄附により購入した遊具（つくし学園）

３　地域福祉・ボランティアサービス区分（収入額：50,829,314 円　支出額：50,698,084 円）

⑴見守りネットワーク推進事業	予算額	2,700,000 円	収入額	2,700,000 円	支出額	2,700,000 円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
だれもが住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援します。 ○地域ケア会議を通して、地区社協や民生委員児童委員、福祉推進員との連携を強化し、支援体制の整備を進めます。 ○福祉推進員の役割や活動内容についての研修会を開催します。	地域ケア会議：各地区年３回 新任福祉推進員研修会 ４月	・市内に福祉推進員310名を配置し、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、障がい者世帯などの見守りや安否確認、定期訪問を行いました。また、地区社協主催の地域ケア会議等に積極的に参加し、地域福祉活動のキーパーソンとして活動しました。 ・活動記録表に記載された見守り対象世帯で、早期に支援が必要とされた方には、地域包括支援センター職員や市社協地区担当職員による訪問、担当民生委員への報告等を行いました。	・R3.2月末実績 見守り対象者　1,023名 ＜内訳＞ 一人暮らし世帯　770名 高齢者のみ世帯　230名 その他　23名 ・地域ケア会議開催回数 大町２回・村木３回 下中島２回・上中島３回 松倉２回・上野方３回 本江２回・片貝２回 加積１回・道下２回 経田３回・天神３回 西布施３回　計　31回

⑵地域住民グループ活動支援事業	予算額	3,722,000 円	収入額	2,992,000円	支出額	2,992,000円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
地域における集いの場を設け、高齢者などの孤立防止、仲間づくり、心身の健康維持を促進します。 ○活動助成金の交付や代表者研修会を開催し、サロン活動が充実するよう支援します。 ○サロンに出向き、様々な地域の課題やニーズの把握に努め、対応策を検討します。 ○講師派遣内容の充実やレクリエーション用品の貸出、サロンの世話役となりえる人材育成を行い、サロン活動を支援します。	目標サロン設置数：93ヶ所 サロン代表者研修会：年２回 サロン講師派遣：通年 レク用品貸出：通年	・コロナ禍の中、自粛要請で各サロンは活動に制限があり当初の計画通りとならない状況でしたが、脳トレプリント配付による安否確認も１回の開催と認め、柔軟に対応しました。また、コロナ感染防止対策として、開催場所での検温・消毒・換気等の状況確認等を行いました。 ・レクリエーション用品の貸出しや講師派遣等を行い、各サロンの活動を支援しました。	・サロン代表者研修会 ３月５日新川文化ホール ・市内サロン数　88か所 登録会員数　2,022人 開催回数　1,318回 延べ参加者数 13,948人 市社協職員派遣　54件 講師派遣　172件 ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ用品貸出 35件

⑶地域総合福祉推進事業	予算額	6,946,000 円	収入額	6,946,000円	支出額	6,814,770円

年度計画		2年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
誰もが住み慣れた地域で安心して生活が送れるように住民と共にニーズを把握し、地区社協などと連携して生活課題を解決できるように支援します。 〇ケアネット活動の周知徹底とケアネット活動のチーム増加を目指します。 〇ケアネット活動や事例検討会などを通じて多職種・多機関との連携による地域の支え合い・助け合いの理解と意識向上を図ります。また、職員の資質向上にも繋げます。 〇第４次魚津市地域福祉活動計画の推進と進捗状況を管理します。	地区社協会長・事務局長会議の開催：年４回 事例検討会：月２回 地域福祉活動計画推進委員会の開催：年２回	・地区社協会長事務局長会議を３回開催し、地域福祉活動実践に関する情報交換、市社協からの重要伝達事項等を報告しました。 ・地域ケア会議において、ケアネット活動の周知や活動を始める際のポイント等を説明しました。 ・魚津市地域福祉活動計画推進委員会を２回開催し、市社協の計画及び地区の計画の進捗状況、改善事項等を協議しました。また、地区社協巡回訪問では、各地区社協の悩みや課題等をお聞きするとともに、市社協への要望や見直し事項も把握する機会となりました。	・地区社協会議の開催 ４月９日・７月20日 ３月11日 ・ケアネット活動実績 チーム数　119チーム チーム参加実人数　257人 ・地域福祉活動計画推進委員会 ７月20日・12月22日 ・地区社協巡回訪問 11月16日～12月４日
⑷地域福祉強化事業	予算額　15,672,000円	収入額　15,498,406円	支出額　15,498,406円

年度計画		2年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
地域住民から寄せられる多様な地域生活課題を受け止め、地域を基盤にして解決につなげる支援や仕組みづくりを行うため、福祉活動専門員、ケアネット活動コーディネーター及びボランティア活動コーディネーターの専門職を配置します。 〇地域共生社会の実現に向け、既存事業も活用しながら多様な団体と幅広く連携、協働し事業・活動を展開します。	通年	・既存の制度やサービスだけでは対応が困難な課題を抱える人たちに対して、身近な場でその生活者と同じ視点を持って、住民や関係機関、自治会等と協働した支援に努めました。 ・さまざまな地域生活課題への対応力を養い、解決に繋げることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を学ぶための研修会へ参加しました。	・福祉活動専門員、ケアネット活動コーディネーター及びボランティア活動コーディネーターの配置 ・研修会の参加（県社協主催）
⑸生活支援コーディネーター活動事業	予算額　7,738,000円	収入額　7,440,196円	支出額　7,440,196円

年度計画		2年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
生活支援コーディネーターを３名配置し、地域における課題やニーズを把握するとともに、活用できる社会資源を発見することで地域の実情に応じた生活支援サービスの発掘、開発を推進します。 〇要支援者１・２の方の予防プランのサービス利用	魚津市地域包括支援センター主催の地域ケア会議（個別・多職種検討・全体会）への出席	・地域における高齢者のニーズ把握や社会資源の洗い出し・整理、サービス検討及びサービスの担い手育成などを主に活動を行いました。 ・各地区の地域ケア会議に参画し、個別ケースに対する多職種、住民等の地域関係者での検討を重ね、課題解	・住民支えあいマップづくり研修会　３月13日(土) 【内容】マップ作成方法、住民からの聴取のポイント、取組み課題の整理、解決策

状況等の把握、並びに既存サービスのみでは解決できない生活支援ニーズや課題を抽出・各地区ごとの分析を行い、地域ケア会議等での説明、協議の場を設定していきます。また、地域振興会や企業等とも連携しネットワークの構築に努めます。 ○魚津市生活支援・介護予防サービス体制整備協議体モデル事業の「地域の居場所づくり」（経田地区：コミュニティカフェ＆プラザ施設事業）の開所に向け、引き続き支援していきます。 ○生活支援サービスに必要な人材発掘・育成を目的とした研修会を開催します。 ○市協議体主催の会議に参加し、情報共有及び職員の資質向上を図ります。	旧経田福祉センター活用推進委員会への出席（随時）	決に向けて取組み可能なものについて協議しました。 ・介護予防を視点とした地域づくりの取組みとして10月に開所した『経田コミュニティカフェ潮風』の運営ボランティア養成講座を開催しました。 ・市の「健康長寿と暮らしの意識調査」結果による高齢者の生活状況や困りごと、趣味や生きがい等を一部地区で周知しました。 ・生活支援コーディネーター活動を充実するため月１回、市社会福祉課高齢福祉係との定例打合せを開催し、情報共有や連携強化を図りました。	・除雪困難な高齢者等世帯の把握及び支援 除雪依頼世帯　14世帯 支援登録５社・　個人２名 除雪活動件数　20件 ・経田コミカフェ開設準備委員会　4回（5/16・6/15・6/29・7/6）出席 ・経田潮風ボランティア養成講座　８月７日　22名参加 ９月15日　23名参加 ・研修会への参加 生活支援 Co フォローアップ研修／コロナ禍の助け合い活動など

⑹買い物サービス支援事業	予算額　250,000 円	収入額　250,000 円	支出額　250,000 円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
買い物が不便な地域、高齢や障がいを理由に遠方まで買い物に行くことが困難な方に対して、地域住民や事業者の協力による買い物支援を実践し、福祉のまちづくりを推進します。 ○現在実施の大町地区、片貝地区、西布施地区の各々の課題に対して、住民とともに対策を検討し継続実施を目指します。	大　町：市場形式 週１回 片　貝：移動販売 週１回又は月２回で検討 西布施：乗合買い物タクシー　月１回	・コロナ禍のため大町地区と片貝地区は６月は中止し、西布施地区は車両使用のため４月、５月及び８月は中止としました。 ・片貝地区は新規業者に変更し、買い物利用者の増加、西布施地区は魚津交通ジャンボタクシーと社会福祉法人海望福祉会の車両と運転手のご協力を得て実施しました。 ・買い物支援による地域住民の外出機会の創出と集まりの場の提供に努めました。	・各地区の買い物支援利用者数（人） R２：大町 869、片貝 588、西布施 76、合計 1,533 R１：大町 1,009、片貝 175、西布施 116、合計 1,300 大町：毎週金曜日　43回 片貝：毎週水曜日　43回 西布施：毎月第３木曜日　８回実施

⑺障害者移送支援事業	予算額　5,085,000 円	収入額　4,984,807円	支出額　4,984,807円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
専用特殊車両を用いて、常時車椅子で生活をする方に対し主に病院や福祉施設への移動支援を行いま	利用目標： 年間600回	・専用特殊車両を用いて、自力での移動が困難で常時車椅子を利用する方の通院等の支援を行いました。	車両　３台 利用者　27名

す。 〇移動支援を行うことにより、地域福祉の増進及び社会生活の利便性を図ります。	月平均50回				年間走行回数　569回 （１日平均2.3回）
⑻ひとり暮らし高齢者給食サービス事業	予算額	802,000 円	収入額	802,000円	支出額　802,000円
年度計画			２年度事業報告		
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等		実績等
ひとり暮らし高齢者等を対象に調理ボランティアによる手作り弁当を配食します。 〇担当民生委員と連携し、配食サービスを必要とする新規利用者の状況を把握し、他のニーズがあれば必要に応じて支援を行います。 〇調理ボランティアの資質向上と交流を図るための研修会を開催します。 〇代表者連絡会を開催し、３地区の配食事業を支援します。		目標提供数：1,540食 上中島： 450食（第２・４土） 上野方： 370食（第２・４金） 経　田： 720食（第１・３土） 研修会･連絡会　各年２回	･コロナ禍のため公民館使用不可の時期があり、配食数は減少しました。 ･上中島地区では、小学校統合後は児童と一緒に弁当を配ることができない状況でしたが、星の杜小学校放課後児童クラブ参加者に弁当掛け紙作成の協力をしていいただきました。 ･調理ボランティア研修会を開催し、コロナウイルス対応等、資質向上に努めました。		・配食の実績（食） Ｒ２　Ｒ１ 上中島　314　426 上野方　296　311 経　田　395　639 合　計　1,005　1,376 利用者数　上中島：17名 上野方：20名　経田：31名 ・研修会の開催 上野方：７月10日 上中島：７月11日(土) ※経田は資料提供のみ
⑼ボランティア活動事業					
ボランティアセンター運営事業	予算額	512,000 円	収入額	512,000 円	支出額　512,000 円
年度計画			２年度事業報告		
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等		実績等
ボランティアをしたい人、ボランティアを求めている人からの相談を受け、調整を行います。 〇ボランティア情報の発信、研修会の開催を通し、次世代の担い手を育成します。 〇ボランティア活動を安心して行えるよう、ボランティア保険加入を促進します。 〇災害ボランティアセンター設置訓練を行います。また、魚津市以外で災害発生した場合は災害ボランティア活動支援者を市民や企業等から募り、災害復興と生活基盤の確保を応援します。		ボランティアセンター運営委員会：年１回 ボランティア養成講座：年２回 ボランティアサポーター研修会：年１回 災害ボランティアセンター設置訓練：年１回	･コロナ禍のため、福祉施設等がボランティアの受入れを自粛したためニーズが減少しましたが、コロナ禍だから見えてくるニーズとコロナ禍でもできる活動を調整しました。 ･魚津市ボランティアセンター運営委員会、ボランティアサポーター交流会を開催し、地区の現状や福祉課題について情報交換、意見交換を行いました。		・ボランティアサポーター研修会 ６月22日　ありそドーム ・傾聴ボランティア養成講座 11月13日　新川文化ホール ・ボランティアセンター運営委員会　３月１日 ・ボランティアサポーター交流会　３月26日
福祉教育地域指定推進事業	予算額	100,000 円	収入額	100,000円	支出額　100,000円

<table>
<tr><td colspan="2">年度計画</td><td colspan="2">２年度事業報告</td></tr>
<tr><td>事業内容等</td><td>実施時期・目標等</td><td>主な取組み等</td><td>実績等</td></tr>
<tr><td>福祉のこころを育み、「共に生きる力」を養うための福祉教育を支援します。
○学校における福祉教育の推進を図るため、福祉教育プログラムを提供します。
○養成した福祉教育サポーター（地域・企業）のフォローアップ研修を実施し、学校から依頼された福祉教育プログラムに幅広く活用できるよう支援します。
○加積地区寺子屋教室の車いすバスケット事業を支援します。</td><td>福祉教育実施件数：５件
福祉教育サポーターフォローアップ研修
車いすバスケットの支援：１回</td><td>・年度当初、学校に福祉教育プログラムの説明に出向く予定でしたが、コロナ禍による学校訪問の自粛もあり、思うように活動ができなかったが、10月には依頼のあった小学校での福祉教育のコーディネートを行いました。
・学校に限らず、地域や福祉施設、企業等を巻き込んだ福祉教育、また、教員との情報交換の機会を次年度の課題としました。</td><td>・学校での福祉教育
【星の杜小学校】
10月14日　点字教室
10月20日　視覚障がい者の講話
【よつば小学校】
11月13日　視覚障がい者の講話
※福祉教育サポーターの派遣　１名　星の杜小学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">【新】⑽高齢者通所型介護予防事業　予算額　8,856,000 円</td><td colspan="2">収入額　8,603,905円　支出額　8,603,905円</td></tr>
<tr><td colspan="2">年度計画</td><td colspan="2">２年度事業報告</td></tr>
<tr><td>事業内容等</td><td>実施時期・目標等</td><td>主な取組み等</td><td>実績等</td></tr>
<tr><td>旧福祉センター（百楽荘・経田）で実施してきた介護予防教室を民間企業とタイアップした新しい介護予防教室として、拠点をサンプラザに移します。気軽に介護予防に参加できる場、集える場を創出することで、介護予防効果の増進と新たなコミュニティを形成します。
○名称を「さんさん介護予防倶楽部　じゃ～んとこい」とし、従来の利用者継続に加え、買い物客の方も利用できるよう工夫を凝らし運営します。
○サンプラザ会場では、参加者の向上と継続参加のため、商店会と協働した各種教室の開催、各店舗へ特典付与の協力を依頼します。
○サンプラザ会場以外は公民館や店舗の協力を得て脳まめなけクラブ等の実施、いきいきサロン等へのスタッフ派遣を行います。
【事業の内容】
○高齢者の元気アップとＱＯＬの向上
・健康増進機能（運動、栄養改善、口腔機能改善、認知症予防）</td><td>開所セレモニー　４月
・来場記念品の贈呈等
リピーター確保策
・皆勤賞等の導入

※旧福祉センターでの介護予防事業終了に伴い、福祉バスを廃車します。</td><td>・コロナ禍のため10月からの本格的な実施となりました。開始までの間、利用者の皆さんに対して、安否確認や自粛生活の寂しさをフォローするため、月２回の手紙郵送、感染症予防を徹底した上での利用者宅を訪問、玄関での距離に配慮した体調確認、フレイルチェック等を行いました。
・地域での介護予防事業として、サンプラザのほか、ウエルシアや町内会館も利用、また、経田コミュニティカフェ潮風での介護予防教室へのスタッフ派遣、脳まめなけクラブを実施しました。
・サンプラザ会場での利用者が増えていることもあり、次年度以降実施日を増加に向けた協議を市担当者及びサンプラザ担当者と行いました。</td><td>参加者実績
【拠点：サンプラザ会場】
<table>
<tr><td>内　容</td><td>男</td><td>女</td></tr>
<tr><td>体操</td><td>104</td><td>1,564</td></tr>
<tr><td>交流ゲーム</td><td>115</td><td>310</td></tr>
<tr><td>創作・趣味</td><td>51</td><td>688</td></tr>
<tr><td>脳トレ</td><td>87</td><td>458</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>357</td><td>3,020</td></tr>
</table>
【地域：岡仏町内会館】
<table>
<tr><td>内　容</td><td>男</td><td>女</td></tr>
<tr><td>体操</td><td>0</td><td>202</td></tr>
<tr><td>創作・脳ﾄﾚ</td><td>0</td><td>227</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>0</td><td>429</td></tr>
</table>
【地域：経田コミカフェ潮風】
<table>
<tr><td>内　容</td><td>男</td><td>女</td></tr>
<tr><td>体操</td><td>8</td><td>170</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>8</td><td>170</td></tr>
</table>
【地域：下中島公民館】
<table>
<tr><td>内　容</td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

・社会参加促進機能（閉じこもり防止、生きがいづくり、役割づくり） ○地域コミュニティの再生 ・新たな支えあいや交流の場の構築、新たなネットワークの形成機能 ・総合相談機能 ○継続利用者の居場所確保と対策			脳まめなけクラブ　38　71　109 合　計　38　71　109 【地域：ウエルシア魚津吉島西店】 内　容　男　女　計 健康麻雀　68　63　131 合　計　68　63　131

４　総合福祉相談事業サービス区分（収入額：10,081,938 円　支出額：10,081,938 円）

⑴ 総合福祉相談事業	予算額　240,000 円	収入額　240,000 円	支出額　240,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
心配ごと、悩みごとに関する様々な相談に対して、必要な福祉サービスに関する情報提供や助言を行います。 ○相談者の問題解決に向けて、社協の関係部署や最適な関係機関等と連携を取りながら、地域で安心して暮らせるようにサポートします。	通年	・コロナ禍の中、職場を解雇、勤務日数の減少等による資金貸付相談が激増しました。 ・日常生活に関するさまざまな相談に応じて、情報提供や助言等を行いました。また、相談内容に応じて、専門機関と連携して課題解決に向けた継続的な支援を行いました。	・心配ごと、悩みごと相談等件数　1,112件 ・本江地区なんでも相談会 11月24日　相談３件 ３月17日　相談１件 相談員：法テラス弁護士

⑵ 日常生活自立支援事業	予算額　6,730,000 円	収入額　6,228,938円	支出額　6,228,938円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力の不十分な方が、地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービス利用援助と利用者の権利擁護に努めます。	通年 利用者数：58名 生活支援員登録者数：23名	・日常的金銭管理サービスや福祉サービス利用援助など、利用者の判断能力に適した支援を検討しながら、代理・代行・同行・相談の各支援をきめ細やかに行いました。 ・コロナ禍であっても継続的支援を行うために訪問時間	・実施状況（件） 相談援助　１,019　１,648　△629 新規契約　6　11　△5

○利用者の意向を確認し、見通しを持った金銭管理を支援します。 ○新規利用者の増加が見込まれることから、生活支援員の確保に努めます。判断能力の低下により本事業での支援が困難となる利用者に対しては、家族や行政等と話し合い、成年後見制度への移行を検討します。			をでるだけ短時間で対応し、効率化を図るよう努めました。 ・生活支援員連絡会の開催、成年後見制度等に関する事例検討会へ参加しました。		契約終了 5 10 △5 ３月末実利用者数　57名 【内訳】認知症17名・知的５名 精神31名・その他４名 ・生活支援員連絡会 ３月５日 ・新任専門員研修会 10月６日 ・富山県福祉ｻｰﾋﾞｽ運営適正化委員会現地調査受入れ ７月30日
⑶ 生活福祉資金貸付事業	予算額	2,273,000 円	収入額	2,273,000円	支出額　2,273,000円
年度計画			２年度事業報告		
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等		実績等
低所得者、障がい者または高齢者の世帯に対して、資金の貸付けと必要な相談援助を行い、経済的自立を図り安定した生活を送れるように支援します。 ○借受人の償還状況を把握し、生活状況を確認した上で自立助長につながる相談支援、または償還指導を行います。滞納者に対しては滞納理由に応じた支援や償還方法などについて県社協と協議を行います。		通年	・コロナ特例貸付による緊急小口資金、総合支援資金の貸付相談と申請事務を行いました。 ・総合支援資金貸付については、東部生活自立支援センター職員も同席し、自立生活に関する相談対応も含めて支援しました。 ・県社協発行の四半期毎の貸付残高通知及び督促状の送付、滞納借受人への償還指導や民生委員との連携を図りました。		・貸付相談等件数　463件 コロナ特例貸付　429件 通常貸付　４件 償還代行、償還相談等　30件 ・コロナ特例貸付額 （R3.3月末時点） 緊急小口資金 149件 25,250千円 総合支援資金　87件 38,010千円 ※総合支援資金は初回・延長・再貸付を含む
⑷ 生活困窮者自立支援事業	予算額	940,000 円	収入額	940,000 円	支出額　940,000 円
年度計画			２年度事業報告		
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等		実績等
富山県東部生活自立支援センターと連携し、生活保護に至らない生活困窮者に対して、経済的自立や社会的自立など、本人の状態に応じた自立支援に努		通年 東部生活自立支援センター巡回訪問	・コロナ禍の影響による減収や失業等で生活困窮等となる新規相談者数が急激に増加し、これまで以上に支援体制の整備強化に努めました。また、魚津市支援調整会		・富山県東部生活自立支援ﾈｯﾄﾜｰｸ会議への出席 ２月19日(金)

め、関係機関との連携を図ります。 ○東部生活自立支援センターやハローワーク等と連携し、就労支援等を行います。 ○食べることに困っている方や喫緊に生活上の困難に直面している方に対して、必要に応じて緊急的に食料支援を行う「フードネーション支援」を継続するとともに、食料を提供して頂ける協力者を募集します。	の受入れ 支援調整会議等への出席	議に出席し、生活困窮者に対する自立支援を図るために必要な情報交換、生活困窮者が地域で日常生活及び社会生活を営めるよう必要な支援体制について検討しました。 ・食料支援の実施にあたり魚津市フードバンク事業運営支援補助金を活用し、低温貯蔵庫の購入や広報活動を実施しました。また３月から経田漁業協同組合「経田わいわい市」からのお惣菜提供があり、生活困窮者の方への支援につなげました。	・魚津市支援調整会議への出席　4/20・7/20・8/17 9/24・10/19・ 2/22 ・食料支援の状況 食料受領 19件 （団体７件・個人12件） 食料支援 45件 （団体２件・個人43件） ※食料支援登録企業新規３件 個人登録新規２件

⑸ 法人後見推進事業	予算額　400,000 円	収入額　400,000 円	支出額　400,000円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
認知症や障がいなどで判断能力が不十分な方を支援するため、当法人が成年後見人、保佐人若しくは補助人となり、判断能力が不十分な方の保護、支援を行います。 ○法テラスや行政等関係機関と連携した成年後見制度の普及啓発、相談に対応します。 ○法人後見推進委員会による受任の適否、後見等業務の助言、指導等を受けます。 ○市民後見人養成講座を開催します。	委員会の開催：年１回 市民後見人養成講座：年１回 （16回コース）	・判断能力がない方、不十分な方への後見等業務を当法人が担い、法人後見推進委員会の指導や助言を頂きながら、被補助人及び被後見人の意思決定支援に努めました。 ・成年後見制度全般に関する正しい知識と関連する諸制度の内容を習得してもらい、身近な立場で支援する市民後見人としての人材養成を目的に、市民後見人養成講座（基礎研修）を開催しました。 ・成年後見制度利用促進体制整備（中核機関の設置）に向け、市担当者との協議や視察研修、オンデマンド等による研修を受講しました。	・後見人等の業務 被補助人１名 （月１回支援） 被後見人１名 （R2.10月から月１回） ・法人後見推進委員会の開催 （新規受任の件）　８／５ （支援経過報告）　２／24 ・市民後見人養成講座 （基礎研修）10月27日～12月17日（全８日間） 受講者９名 （全課程受講６名） ・呉西地区成年後見センター（高岡）視察研修10月14日

５　共同募金事業サービス区分（収入額：3,951,732 円　支出額：3,951,732 円）

⑴ いきいきサロン活動事業	予算額　800,000 円	収入額　800,000 円	支出額　800,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
地域における集いの場を設け、高齢者などの孤立防止、仲間づくり、心身の健康維持を促進します。 ○サロンへ活動助成金を交付し、活動の充実を支援します。	目標サロン設置数：93ヶ所	・市内88か所のサロンへの活動助成金の交付を行いました。	・助成額 総額2,418千円のうち、本事業での 助成額721千円
⑵ 地区社協活動推進事業	予算額　1,015,000 円	収入額　1,015,000 円	支出額　1,015,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
地区社協の活動を支援します。 ○13地区社協の小地域福祉活動計画に基づく各種活動の実践を支援します。	通年 地域福祉活動計画推進委員会の開催 年２回	・小地域福祉活動計画の取組みへの支援並びに地域福祉活動計画推進委員会を開催し、各種取組みの進捗状況、評価、改善事項の報告と次年度計画（第２次）策定に向け協議しました。	・地域福祉活動計画推進委員会 第１回　７月20日(月) 第２回　12月22日(火)
⑶ 福祉でまちづくり活性化事業	予算額　480,000 円	収入額　480,000 円	支出額　480,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
地域における課題を解決するため、養成講座や研修会を開催し、次世代を担う福祉人材を養成します。 ○魚津市まちづくりフォーラムに参加します。	通年 養成講座の開催 まちづくりフォーラム：年１回	・ささえあいマップづくり研修会事業と一体的に実施し、福祉でまちづくりの意識啓発に努めました。 ・魚津市まちづくりフォーラムには魚津市社協イメージキャラクターうおっしゃくんが参加しました。	
⑷ ささえあいマップづくり事業	予算額　100,000 円	収入額　100,000 円	支出額　100,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
行政区ごとの支え合いマップづくりを通し、より身近な居住地域の情報を共有し、地域課題を話し合う機会をつくります。 ○日頃からどのような助け合いや支え合いが行われているかを話し合い、可視化することで「見守	通年	・マップの更新作業における様々な課題への取り組みや、支えあいマップ作りの意義を再認識するため、地区社協役員や民生委員、自治会、市社協職員を対象に研修会を開催しました。研修会の中で、見守り活動より見守り対象者本人の「見守られ活動」も自	・研修会の開催 住民支えあいマップづくり 講師：木原　孝久　氏 ３月13日(土) 9:00～15:30 参加者 43名

り体制の充実」、「集まりの場」、「災害時の活動」など、町内会の活性化に必要な今後の取り組みを検討します。 〇未着手地区への啓発や経田地区、西布施地区のマップ更新を支援します。		助の重要性であることを学びました。 ・マップの更新作業に関する説明を希望する町内へ職員を派遣しました。	・マップ作成及び更新 新規：なし 更新：道下（９月～） 加積（10月～） 西布施（12月５日） ※上野方、経田は地区で自主的に更新
⑸ 社会福祉大会開催事業	予算額　425,000 円	収入額　425,000 円	支出額　425,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
第69回魚津市社会福祉大会を開催します。 〇福祉関係者をはじめ、広く市民の皆さんが地域福祉を考える機会とします。 〇福祉事業功労者の表彰、大会宣言の承認と大会決議の採決、記念講演を実施します。	日時：７月11日(土) 13時30分 会場：新川文化ﾎｰﾙ	・コロナ禍のため、新川文化ホールでの開催を変更し、魚津市障害者交流センターで実施しました。 ・内容は、魚津市社会福祉協議会会長表彰並びに感謝状贈呈式のみとしました。	・会長表彰受賞者 個人６名　１団体 ・会長感謝状贈呈 個人７名　１団体
⑹ 広報啓発活動事業	予算額　553,000円	収入額　553,000円	支出額　553,000円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
「より見える、見やすい社協活動」を常に意識し、住民の福祉活動の理解と地域福祉活動参加意欲の促進を目指します。 〇情報発信の手段（組織内部・利用者やその家族・地域社会に対しての広報）のあり方を工夫します。 〇ホームページの内容を見直し、より分かりやすい内容でタイムリーな情報発信に努めます。	広報誌発行：四半期ごと ６月・10月・２月予定 ホームページの更新 フェイスブックなどの活用検討	・社協だよりを年３回発行し、コロナ禍に対応した地域福祉活動の取組みを提案したほか、当法人の事業報告と収支決算報告を行いました。 ・当法人の活動をより市民の皆さんに理解してもらえるようホームページのリニューアルやパンフレットの作成を行いました。	・広報誌 「うおづ社協だより」 ６月・10月・３月に発行 ・ホームページのリニューアル
⑺ 魚津あったか食堂事業	予算額　578,000円	収入額　578,732円	支出額　578,732円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
温かい家庭の味を大勢で食べることによって、孤食から解放され誰もが楽しく食事ができる食堂を開催します	実施回数：年10回 参加者数：見込み60人/回	・コロナ禍のため、４～６月は中止。また、不特定多数の方が１つの会場で食事する形式を変更し、事前申込制による弁当配食・配達で実施しました。	・実施日及び食数 7/18(土)136食 8/8(土) 26食

○子どもから高齢者まで、だれもが気軽に集まり交流できる場所として取り組みます。 ○当協議会が事務局を担うとともに、民生委員やボランティア主体の運営をサポートすることで地域住民の福祉向上に努めます。	実施場所：旧百楽荘（予定） ※１食の値段見直し予定	・市内４児童センターでは配食、生活困窮の方には市社協職員が配達しました。 ・３月に「魚津あったか食堂運営委員会」を発足し、活動体制等を明確にしました。 ・運営スタッフや関係者の方から、米や野菜等のご寄附頂き活動することができました。	9/26(土)161食 10/31(土)153食 11/28(土)162食 12/19(土)164食 2/27(土) 133食 3/27(土)139食 ・新川地域発展賞の受賞 １月31日(日)　授賞式

▲　さんさん介護予防倶楽部じゃ～んとこい

▼　ささえあいマップづくり研修会

▲　魚津あったか食堂（児童センター）

２　児童センター拠点（収入額：85,264,849 円　支出額：83,918,839 円）

１　児童センター管理経営事業サービス区分（収入額：48,235,977 円　支出額：46,889,967 円）

(1) 児童センター管理経営事業	予算額　48,619,000円	収入額　48,235,977円	支出額　46,889,967円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
児童が健全な遊びを通して心身を育成し情操を豊かにできるよう、地域の期待に応える児童センターの経営に努めます。 ○児童が安心して過ごせる居場所の確保・危険防止と過ごしやすい環境を整備します。 ○子どもの自主性、社会性、創造性などを育めるよう、魅力ある遊びのプログラムの企画や、各地域に根ざしたイベントを行います。 ○小学校長や主任児童委員等で構成する児童センター運営会議を開催し、意見や助言を求め、適正な管理等に努めます。	利用者目標：64,000人（前年度目標：66,000人） 児童センター運営会議 年１回（５月に開催予定）	・コロナ感染症対策を徹底するために全職員が「感染予防について」の研修を受講しました。 ・感染対策しながら児童が安心して過ごせる場づくり、魅力ある遊びのプログラム、地域に根ざしたイベントを開催しました。 ・かもめ児童センター 10月１7日　かもめキッズマーケットを開催 ・つばめ児童センター 10月から月1回　土曜イベントを開催 ・ひばり児童センター 9月から月1回　サタデークラフトを開催 ・すずめ児童センター コロナに負けるな！と題してマスク作り等を開催	**来館者数：47,195人** かもめ：　5,758人 つばめ：15,223人 ひばり：11,356人 すずめ：14,858人 （前年度実績：62,059人） 運営会議 ７月に運営会議資料を委員に送付

２　放課後児童健全育成事業サービス区分（収入額：28,871,672 円　支出額：28,871,672 円）

(1) 放課後児童健全育成事業	予算額　31,024,000 円	収入額　28,871,672 円	支出額　28,871,672 円
年度計画		２年度事業報告	

事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
下校後に保護者が仕事等で家庭にいない児童を対象に、適切な遊びと生活の場を提供し健全な育成を図ります。 ○保護者、学校、地域等関係機関と連携を図り、子ども自身への支援と同時に子どもの生活の基盤である家庭での養育を支援することに努めます。 ○放課後児童支援員の資質向上を目指し、専門性を高めます。	通年（月～土曜日）	・緊急事態宣言による小学校の休校期間中も、仕事等で保護者が不在の児童を終日受け入れ子育て支援を提供しました。 ・保護者、学校や関係機関と連携し支援方法を学び、子どもの育成支援を行いました。 ・専門性を高めるために、６名が放課後支援員養成研修、５名が資質向上研修を受講しました。	**利用者実績：41,397人** かもめ： 4,463人 つばめ：12,953人 村　木： 2,510人 ひばり：10,292人 すずめ：11,179人 （前年度実績） （利用者数：49,790人）

３　地域子育て支援事業サービス区分（収入額：6,157,200 円　支出額：6,157,200 円）

(1) 地域子育て支援事業	予算額　6,225,000 円	収入額　6,157,200 円	支出額　6,157,200 円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
乳幼児親子が気軽に集い交流できる場を提供し、子ども同士の交流や、子育ての不安・悩みを解消できるよう親子教室を開催します。 ○自由に参加できる「ひろば」をひばり（月）、つばめ（火）、すずめ（木）児童センターで週１回、会員登録制「親子教室」を週２回（水、金）開催します。 ○親子教室の開催日を調整し、乳幼児期から親子で楽しく過ごせる居場所づくりを目指します。	通年 目標利用組数 親子教室（水・金） 親子1400組 ひろば（各センター週1回） 親子700組	・4，5月は子育ての不安や悩みを相談できる体制を整え、コロナ禍での育児の不安を受け止めました。６月から登録制による親子教室を開催、７月からは自由に参加できるひろばを再開しました。 ・感染拡大を予防しながら、集いの場の提供、発達に合わせた遊びの提供、また子育ての不安や悩みが解消できるように努めました。 ・ひろばの開催曜日を分散したことで、親子の遊びの場が広がり利用者も増加しました。	３センターで実施 （つばめ・ひばり・すずめ） ・登録親子教室（水・金） 利用組数：921組 ・ひ ろ ば（週1回） 利用組数：699組

４　ファミリーサポートセンター事業サービス区分（収入額：2,000,000 円　支出額：2,000,000 円）

【拡】(1)ファミリーサポートセンター事業	予算額　2,000,000 円	収入額　2,000,000円	支出額　2,000,000円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
育児の援助を受けたい人（依頼会員）と育児の援助を行いたい人（協力会員）が相互援助活動を行い、保護者が仕事と育児を両立できるように支援します。 〇事業担当を地域福祉課から移管し、より利用しやすい体制を整えます。 〇子育て応援講座を開催し、育児に関する学びの場、会員同士の交流や事業の周知を行います。	通年	・サービス利用希望者と支援者が利用しやすいように児童センターの場所提供を試みました。 ・活動に必要な支援方法を学ぶための講習会を開催し、協力会員の募集に努めました。 ・交流会を児童センターで開催し、子育て世帯への事業の周知を図りました。	預かり支援：３回 交流会：２回 依頼会員：98名(1名増) 協力会員：23名(1名増) 両方会員：2名

▲　放課後児童健全育成事業(学童)

▼　かもめキッズマーケット

▲　ファミリーサポートセンター交流会

３　障害福祉サービス拠点（収入額：97,884,395 円　支出額：96,361,845 円）

１　障害者交流センター管理経営事業サービス区分（収入額：4,185,592 円　支出額：4,062,633 円）

(1)障害者交流センター管理経営事業	予算額　4,272,000 円	収入額　4,185,592 円	支出額　4,062,633 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
障がいのある人たちの自立と社会参加の促進に寄与するための施設づくりに努めます。 ○利用者が利用しやすい交流の場、活動の場となり障がいのある人たちの居場所づくりに努めます。 ○障がいのある人たちの地域生活への理解を促進するため、交流イベントの開催、情報発信を行います。 ○パラリンピック出場選手への積極的な支援、障がい者ダンスチームの支援など障がい者のスポーツ、文化活動の充実を図ります。	開所日：火～日曜日 9時～17時	・交流センターだよりを発行して、パラリンピック出場選手の応援や研修会に関する情報提供を行い、利用促進に努めました。また、「ダンス教室」を月2回開催して余暇活動や交流の場として活用されました。 ・コロナ禍で障がい者団体等の行事が縮小されたため、利用者は大きく減少しました。	年間利用者数　5，571人 交流センターだより 年３回 （前年度） 年間利用者数　8，635人

２　障害者地域生活支援事業サービス区分（収入額：17,669,044 円　支出額：17,318,655 円）

(1) 障がい者相談支援事業	予算額　16,697,000円	収入額　16,789,044円	支出額　16,438,655円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等

障がい者やその家族等からの様々な相談に応じ、地域で自立した日常生活および社会生活が送れるよう、相談支援を行います。 ○障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画書」の作成と定期的なモニタリングを実施します。 ○地域に暮らす障がいのある人たちの身近な相談窓口として、生活、就労、余暇支援などさまざまな相談に対応します。 経営改善の取り組み ・適切な人員配置を行い特定事業所加算等による収益増 ・継続サービス利用支援（モニタリング）の実施件数の増加	サービス等利用計画作成 140 件 モニタリング 180 件	・市内の障がいのある方の様々な相談に応じ、福祉サービス等の情報提供や不安の軽減、地域で豊かに暮らしていくための社会資源づくりに努めました。 ・福祉サービスを利用する人に対して、利用者の実態に応じたきめ細かいサービス等利用計画とモニタリングを実施し増収に繋げました。 ・新川地域自立支援協議会地域生活部会の幹事として、新川圏域のグループホームやショートスティの利用実態調査を実施しました。	委託相談件数　3,112件 計画書　148件 モニタリング　212件 （前年度） 委託相談件数　1,361件 計画書　144件 モニタリング　94件
⑵ 手話・朗読奉仕員養成事業	予算額　600,000 円	収入額　600,000 円	支出額　600,000 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
聴覚障がい者、視覚障がい者のコミュニケーション支援を行うため、ボランティア養成を行います。 ○手話を学び始めたい人を対象に「魚津市民手話教室・入門講座」を開催します。 ○視覚障がい者向けの音声による情報提供を推進するため、朗読奉仕員（音訳ボランティア）養成講座を開催します。	手話教室・入門講座 全20回 音訳ボランティア講座　全10回	・手話奉仕員の養成のため市民手話講座（入門課程）と朗読奉仕員養成のための音訳ボランティア養成講座を開催しました。	・市民手話講座　全20回 9人受講（修了者8人） ・音訳ボランティア養成講座　全10回　7人受講
⑶ 障害者ＩＴ推進員派遣事業	予算額　280,000円	収入額　280,000円	支出額　280,000円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
障がい者のパソコン等の使用に関する相談や援助を行い、社会参加を促進します。 ○障害者交流センターで「障がい者パソコン教室」を開催します。	パソコン教室開催日 毎月　第4土曜日	・障害者交流センターで月1回、パソコン教室を開催しました。パソコンの情報交換と、交流の場として活用されました。	パソコン教室　毎月第4土曜日開催

３　グループホーム大光寺事業サービス区分（収入額：9,359,450 円　支出額：9,029,782 円）

(1) グループホーム大光寺事業	予算額　10,336,000 円	収入額　9,359,450 円	支出額　9,029,782 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
利用者一人一人が地域でその人らしい自立した暮らしができるよう支援します。 ○ニーズに応じた個別支援計画を立て支援するとともに、定期的にモニタリングを実施します。	サービス提供：通年 利用者6名	・利用者に関する状況について情報交換と、世話人や管理者の支援方法の協議や共有を目的として、定例的なミーティングを実施しました。利用者への適切な支援や世話人の資質向上につながりました。	利用者 6 名

４　つくし学園管理経営事業サービス区分（収入額：66,670,309 円　支出額：65,950,775 円）

(1) つくし学園管理経営事業	予算額　62,489,000 円	収入額　62,351,309 円	支出額　61,631,775 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
新川地域の中核的な児童発達支援センターとして、専門的な「発達支援」「家族支援」「地域支援」を提供します。 ○地域の保育園との併行通園への対応、医療的ケア児受入などニーズに応じた「児童発達支援事業」を実施します。 ○「保育所等訪問事業」を実施し、保育園だけでなく小学校、学童クラブなどでの環境整備、支援方法を伝えます。	サービス提供日： 月～金 利用定員：20 名	【児童発達支援事業（通園部）】 ・コロナ感染症対策を徹底し、園児の発達段階、健康状態をきめ細かく把握し一人一人に合わせた発達支援を目的に安全な園運営に努めました。 ・就労している保護者が増加している中、園児の受け入れ時間の延長、降園後利用できる福祉サービス事業所の調整などを行い、子どもたちに必要な発達支援が提供できる体制を整えました。 ・日常的な相談、家庭訪問、個別面談、保護者サロンの開催など家族支援に積極的に努めました。 【保育所等訪問支援事業】 ・保育園を訪問し、発達の特性に応じたかかわり方や支援方法について担当職員とともに検討しました。利用者数が増加する中、こどもの成長発達に応じた支援を実施できるよう定期的な訪問を実施しました。	契約園児数：27 人 開所日数：239 日 延利用者数：4,813 人 （前年度実績） 契約園児数：25 人 開所日数：242 日 延利用者数：4,868 人 保育所等訪問 契約者数：41 人 延利用者数:212 人 サービス等利用計画作成

			【障害児相談支援事業】 ・本人の思いや家族のニーズに沿ったサービス等利用計画、モニタリングを実施しました。		契約者数　81 人
⑵ 療育等支援事業	予算額	4,319,000 円	収入額　4,319,000 円	支出額	4,319,000 円
年度計画			２年度事業報告		
事業内容等		実施時期・目標等	主な取組み等		実績等
障がい児や支援の必要な子どもたちや保護者からの相談を受け、生活を支えるため個別支援や地域の関係機関とのネットワークづくりを行います。 〇個別療育相談、気になる子どもたちのスキルアップ教室（りんご教室）を開催します。 〇保育士の交流会等支援者向けの研修会を開催します。		りんご教室 5 クラスで実施	【障害児等療育支援事業】 ・家庭や保健センターに出向いての相談、土曜日の相談対応など保護者の集いに合わせて相談を行う等、相談しやすい環境を整えました。 ・地域の保育士向けに発達に気になる子どもたちの支援方法や家族支援について勉強会を開催しました。 ・医療的ケア児とその保護者の交流会を開催し、情報交換や、地域で暮らす仲間づくりに取り組みました。		療育等支援事業 ・個別相談　465 回 ・グループ療育　42 回 ・施設支援　147 回 医療的ケア児交流会 ・年 3 回開催 のべ参加者数　44 人

▲ 療育活動の様子（つくし学園）

▼ ふれあい運動会（つくし学園）

▲ 医療的ケア児交流会（つくし学園）

4　介護保険サービス拠点（収入額：512,022,074 円　支出額：276,621,437 円）

1　ホームヘルパーステーション事業サービス区分（収入額：184,404,618 円　支出額：101,698,535 円）

(1)ホームヘルパーステーション事業	予算額　178,861,000 円	収入額　184,404,618 円	支出額　101,698,535 円
年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
要介護の方、障がいのある方が、地域で安心して自立した日常生活を送ることができるよう支援します。また、利用者の方に寄り添い、ニーズに応じたサービスの提供に努めます。 ○介護保険法による「訪問介護」「総合事業」、障害者総合支援法による「居宅介護」「同行援護」を実施します。 ○受診同行や介護保険サービス外の必要なサービスについて、私的サービス事業を提供します。 ○障がいのある人たちの社会参加を目的に「移動支援事業（市委託）」を提供します。 ○利用者のニーズに応じた多様なサービス提供に努め、迅速かつ効率的・柔軟性のある質の高いサービス提供を行います。 経営改善に向けた取り組み ・訪問介護（介護保険）のサービス提供体制の強化 ・私的サービス利用料金の見直し	サービス提供日 12月29日～1月3日を除く毎日 **目標訪問回数：31,000件** 訪問介護:20,220件 総　　合：5,040件 障 が い：5,400件 私　　的：340件	・コロナ感染症対策の徹底を図りながら慎重なサービス提供に努めるとともに、緊急時の迅速な対応や利用者ニーズ・自立支援を重視したサービス提供に取り組みました。また、多様化するニーズに適切に対応するため、多職種との連携や情報交換に努めました。 ・コロナの影響で中止になる研修も多くありましたが、事業所内でのミーティングを充実させ、資の高いサービス提供に努めました。 ・サービス提供実績は、昨年度より減少ぎみだった障害サービスは利用者が増えたことにより増回となりました。 ・介護保険サービスでは総合事業の利用者が支援から介護に移行したケースや体調を崩しサービスを増回されたことにより、訪問介護件数増に繋がったと考えられます。 ・今年度目標値に対し、総合事業と私的サービスは減少となりましたが、全体では1,330件増の結果となりました。	12月29日～1月3日を除く毎日営業 延訪問回数：32,145件 訪問介護　：21,151件 総合　　：　4,221件 障害　　：　6,410件 （同行、移動支援含む） 私的　　：　363件 （前年度実績） 12月29日～1月3日を除く毎日営業 延訪問回数：30,815件 訪問介護　：19,854件 総合　　：　4,922件 障害　　：　5,545件 （同行、移動支援含む） 私的　　：　494件

２　東部デイサービスセンター事業サービス区分（収入額：155,534,163 円　支出額：86,845,516 円）

⑴ 東部デイサービスセンター事業	予算額　153,231,000 円	収入額　155,534,163 円	支出額　86,845,516 円

年度計画		２年度事業報告	
事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
要介護状態となった方々の食事・排泄・入浴介助などの日常生活等の援助とともに、閉じこもり予防、心身の機能維持、家族の介護負担の軽減に努めます。 ○令和元年 10 月よりサービス提供時間を 7～8 時間に延長しました。利用者の機能訓練（レクリエーション）の充実、家族の介護負担の軽減に努めます。 ○認知症対応型デイサービスの充実を図り、認知症の方々の進行予防や周辺症状の緩和に努めます。 ○通所介護、総合事業を実施し、利用者ニーズに応じて迅速かつ柔軟な受け入れを行い利用しやすい施設づくりを図ります。 ○質の高いサービス提供とともに、収支バランスを意識した経営管理を行います。 経営改善に向けた取り組み ・サービス提供時間の延長による収益増 ・人員配置、購入業者の見直しによる支出削減	サービス提供日：年間360日 利用定員 通所介護（総合事業含む）23人 認知症対応型通所介護　12人 **目標利用者数：9,840人** 通所介護：5,280人 認 知 症：3,480人 総合事業：1,080人	・コロナ禍の状況だったが感染対策を取りながら利用者確保に努め、前年度より延べ1,398人の増となりました。 ・感染症防止対策のため外出レクレーションの自粛や演芸ボランティアの受け入れができませんでしたが、利用者に満足してもらえるレクリエーション活動の提供や一人一人に応じた個別レクリエーションの提供に努めました。 ・1月、大雪による臨時休館を行いました。サービス提供できないことにより食事、排泄が困る利用者への対応を、介護支援専門員や家族と連携して行ったり、職員が訪問して対応を行うなどしました。	営業日 12月31日～1月3日を除く毎日 （1月9日・10日・11日大雪の為　閉館） 通所介護　5,596人 認知症対応型　3,470人 総合事業　708人 合計　9,774人 （前年度実績） 通所介護　4,451人 認知症対応型　2,895人 総合事業　1,030人 合計　8,376人

３　身体障害者デイサービス事業サービス区分（収入額：79,449,498 円　支出額：41,487,036 円）

⑴ 身体障がい者デイサービス事業	予算額　9,656,000 円	収入額　9,622,809 円	支出額　9,618,402 円
⑵ 通所介護・生活介護事業	予算額　70,265,000 円	収入額　69,826,689 円	支出額　31,868,634 円

年度計画	２年度事業報告

事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
障がいのある人々の自立と社会参加を目的に、利用者ニーズの応じた幅広いサービス提供を行います。 ○障害者総合支援法に基づく「共生型生活介護サービス」、介護保険法に基づく「通所介護」「総合事業」を実施します。 ○関係機関と連携をはかり利用者の個性を生かした質の高いサービス提供を行います。 ○地域のさまざまな社会資源を活用し地域住民との積極的な交流を行います。 **【新】児童福祉法に基づく「共生型放課後等デイサービス」を実施します。** 障がいのある子どもたちの健やかな育ちを支えるために積極的に取り組みます。家族、関係機関と連携して子どもたちの大好きな場所になることを目指します。 経営改善に向けた取り組み ・共生型放課後等デイサービスの実施による収益増 ・人員配置の見直しによる支出の削減	サービス提供日： 月～土 利用定員：23 人 **目標利用者数：** **5,280人** 通所介護：1,200人 総合事業：480人 生活介護：2,880人 身障デイ：200人 放課後等デイ：520人	・「コロナ禍であってもできる活動をする」を合言葉に利用者が生きがいを持って自立した生活を送ることのできる支援に努めました。またリサイクル活動やウエスづくりなどを通じて社会参加に取り組みました。 ・事業所合同ケース検討会はコロナ禍で行えなかったが、専門機関や有識者との連携により質の高いサービスとあきらめない支援に取り組みました。 ・コロナ禍での放課後等デイサービス事業の実施ではあったが、感染症対策を徹底し様々な工夫を凝らしてサービス提供を実施しました。子ども、障がい者、高齢者など様々な人たちが利用する共生型デイサービスの強みを活かしたサービス提供に努めました。 ・実習生の受入れを積極的に行い障がい者福祉への理解促進に努めました。	サービス提供日：月～土 利用定員：23 人 **利用者数：5,049人** 通所介護：1,288人 総合事業：499人 生活介護：2,552人 身障デイ：210人 放課後等デイ：500 人 （前年度実績） 利用者数　4,731人 通所介護　1,168人 総合事業　537人 生活介護　2,800人 身障デイ　226人

4　居宅介護支援事業サービス区分（収入額：92,633,795 円　支出額：46,590,350 円）

⑴居宅介護支援事業	予算額　90,637,000 円	収入額　92,633,795 円	支出額　46,590,350 円
年度計画		２年度事業報告	

事業内容等	実施時期・目標等	主な取組み等	実績等
利用者の尊厳保持や自立支援を重視した公正、中立、誠実なケアマネジメントを実施し、地域で安心して暮らすことのできるケアプランの作成を行います。 〇研修会等に参加し、職員の質の向上図ります。 〇多職種や地域との連携を強化し、地域包括ケアを実践し地域貢献に努めます。 〇困難事例にも積極的に対応し、社協らしいケアマネジメントを実践します。 〇経営管理体制の充実、職員間でのコスト管理の徹底を図ります。 経営改善に向けた取り組み ・入院加算、退院・退所加算等の適切な加算請求 ・新規利用者の積極的な受け入れによる利用件数の増加	介護支援専門員 常勤：5名 パート職員：3名 主任介護支援専門員：2名配置 **目標利用件数：3,240件** 要介護1～2：2,160件 要介護3～５：1,080件	・利用者の尊厳保持や自立支援を重視した公正、中立、誠実なケアマネジメントを実施しました。また、利用者のニーズ生活スタイルに合わせたその人らしい計画書の作成を行いました。 ・感染症対策を徹底するために、事務所を東部デイサービスセンター２階に移転しました。 ・定期的な事業所内事例検討の実施や各種研修会への参加を行い職員の質の向上を図りました。 ・関係機関と連携して困難事例に積極的に取り組んだり、新規利用を断らないなど地域貢献に努めました。 ・経営管理体制の充実、職員間でのコスト管理の徹底を図り、効率的な業務と安定した運営に努めました。	営業日 祝日及び12月29日～１月３日を除く月～金 **延利用者数：3,442人** 要介護１・２：2,323人 要介護３～５：1,119 人 （増加率 1.06 倍） （前年度実績） 延利用者数：3,223人 要介護１・２：2,232人 要介護３～５：991 人

▲ 感染症対策徹底による事業運営
（東部デイ）

▼ 共生型放課後等デイサービス事業開始
（身障デイ）

▲ 障害者支援施設ひゞきとのリモート交流会
（身障デイ）